

再生医療等提供計画に記載された再生医療等と同種又は類似の再生医療等に関する

国内外の実施状況

PRP を治療に応用する方法は主として歯科領域最初に **Marxs** らによって始められ、その後皮膚科形成外科領域の糖尿病性潰瘍、褥瘡治療に応用されるようになり、最近では整形外科領域でも慢性髄鞘炎、関節炎などの治療に世界的に応用されるようになってきている。

自家植毛領域でも応用されており、植毛前に PRP を頭髮に注入して血管網の増生を図る、移植後も注入を行うことで移植毛の定着率を高める方法の一つとして行われている。また donor site に注入することで、移植毛採取部位の創傷治癒を促進する。

植毛手術中に行われる PRP については、**Carlos** らが植毛成功率（定着率）や毛髪成長を促すことを臨床試験にて確認しており、形成外科領域で最も権威ある国際学会誌 **Plastic & Reconstructive Surgery** で報告している。

国内では 2006 年より松田らはこの PRP 療法を美容外科領域に応用し、一定の効果が挙げられることを報告している。そして、近年美容外科領域では多くの学会発表、シンポジウムが行われ、多数の研究者が発表に立ち、PRP 療法が他施設で一般的に行われていることがうかがわれる。